

# 多岐真人会葬

第 4 号  
平成 13 年 9 月  
編 集 発 行  
福 島 県 人 会  
北 海 道 連 合 会

うつくしま未来博へ

会長 上田 小八重

五月二六日、第二九回福島県人会北海道連合会の総会が、道内十二地区一四四名の出席者を迎え、函館市で開催されました。

昨年四選を果された佐藤栄佐久知事から、福島空港の国際化、アクアマリンふくしまの開館などが報告され、具体化してきた「首都機能移転」についてご説明。ますます発展するわれら母県の先頭に立つ知事のお姿に、しばし拍手が鳴り止みませんでした。

ついで、本田信博首都機能移転対策室長より、懇切な説明をいただき、いよいよ母県が「日本のふるさと」になってきたことを実感いたしました。

渡部敏則うつくしま未来博推進局次長からは、ビデオも使った「未来博」の紹介があり、連合会から寄付金が知事に渡されました。

翌二七日には、市内高竜寺境内にある「傷心惨目碑」碑前祭に、知事ご夫

妻をはじめ、各地県人会からのご参加をいただきました。

高竜寺は、戊辰の役のとき、傷兵収容の病院であった所で、五月十一日の函館総攻撃の際、放火・殺戮を受け、会津藩士も多く含まれておりました。多数のご参列を戴き、義に殉じたわれら同胞の感、いかばかりであったでしょうか。

道連合会総会には、毎年県知事がご出席いただき、会員を励まし親しんで下さることは、わが福島県人会の誇りでもあります。

第一回のときは、折笠副知事のご出席でした。総会のおと「何かご希望は」と伺いましたら、「焼鳥屋に。県内では行けないものだから」とのこと。何というやさしい庶民性。どこかの国の誰かさんに爪の垢でも煎じて飲んでもらいたいものと思えます。

二回目からは、松平勇雄知事。幕府軍を葬った「碧血碑」の前では「黒松があつて、見下ろす街並みの高さ、近さ」といい、飯盛山からの眺めと同じ」

と。「傷心惨目碑」前では、「幼いころ聞かされたことが、本当であった。」と涙ぐまれた。その後、自ら会津山中に入り、自生の「紅更紗どうだんつじ」を選定、この碑前に植樹なさったことが、昨日のことのように思い出されま

す。佐藤栄佐久知事は、ご夫人同伴の家庭的な親しさで、いつも励まして下さること、会員にとってこの上もない喜びであります。

母県とともに発展する北海道連合会の皆さまのご健勝を祈ってやみません。さあ「うつくしま未来博」へレッツゴー!



## 各県人会をより



念願の県人会旗完成を祝う

昔小牧では平成十年の市制五十周年記念を機に「昔小牧東北県人会連合会」が設立されました。この会設立によってその初年度は、港まつり協賛郷土芸能カーニバルで、それぞれの県の芸能を披露、平成十一年からは港まつり中央会場において、「東北六県物産即売店」を各県人会が来店し、市民の好評を得ています。このように県人会が協力しつづつ親睦を深め合っています。設立年と十一年の二年連続で、各県人会総会を同日同一会場で行い、引き続いて約四百名参加の盛大な合同懇親会を行ってまいりました。又明年もこのスタイルで行うことになっています。

ところで、会場のホテル中央ステージには、各県人会旗がならべられるのですが、私達福島県人会は肝心の「県人会旗」が無く、やむなく北海道事務所から贈られた県の旗をよそから借りた竿頭をつけて並べて凌いで参りました。

わが県人会旗をステージに並べられない無念さを味わいたくないと、役員会で協議した結果、役員が特別の努力をすること、会員のご協力を頂いて

資金調達をして、県人会旗を製作することにしました。

この度、福島県旗同様のオレンジ色の正絹生地を白銀糸で刺繍した苦小牧県人会マークがくっきり浮かび出た県人会旗が出来上りました。

その完成と、今年も港まつりでの福島もも売場の喜びも併せて「県人会夏の集い」を八月二十五日開催し、多数の会員と家族も集まって完成を祝いました。

なお、今年も福島もも販売会場で県人会入会募集をし、六名の方が入会しました。まさにももが取り持つ縁でした。(苦小牧福島県人会 神野 修)



### 連合会総会に参加して

小雨のparaつく午前〇時に二十四名を乗せたバスは、往復千二百キロの旅路に出発しましたが、真夜中なのに修学旅行の小学生のようにはしやぎ、眠りについたのは朝明るくなる頃でした。途中崖くずれのアクシデントがあったりしながらも曇った窓を大竹さんが運転しやすいように拭きながら、四回ほど小休止して会場の函館花びしホテルに十二時間かかって到着した時は、着いたと実感しました。

ホテルのロビーで再会を喜び合い、各自部屋で寛いで温泉に入ったりして、午後二時から総会に参加、福島県佐藤知事の御祝辞をいただき、協議事項も円滑に完了し、記念写真に全員で納まった後、懇親会に参加しました。

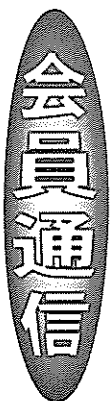
各地から集まった同士が近況を語り、故郷を思い出して笑いと涙の出会いを大切にしながら、記念の写真を知事御夫妻と写したりと、ワイワイガヤガヤしている内に時間も迫ってきて、最後の相馬盆唄と北海盆唄を会場狭しと全員で踊り、クライマックスに達し無事終了しました。

その時に「函館山の雨が止み、見学会に行ける」と場内放送されると、大歓声が上がります。期待と不安を胸に早速バスに乗りました。

かかる頃、左から右へと窓から見えるダイヤモンドのようなキラキラした夜景の美しさに、思わず拍手と歓声が止まることなく上がったのです。

雨上りの澄んだ空と海に浮かぶ白い船を見ながら、幻想の世界に引きずり込まれるような感動を知り、「福島県人会でよかつた」とつくづく思い、この美しい風景と思い出を生命の奥に刻みながら一人一人誓い合いました。

最後に函館の歴史と美しさを紹介していただいた函館県人会の皆様、大変御世話になりました。厚く御礼申し上げます。(美幌町県人会 近藤 康弘)



### 我が人生を顧みて

別海町県人会 板垣 武

皆さんこんにちは。別海町県人会も発足以来三十三年、私が入会してから二十六、七年になります。

会員通信の依頼を受けましたので、私のプロフィールを申し上げます。

大正十四年、福島市鎌田舟戸に生まれました。昭和三年、父が四十一歳で亡くなり、そのとき母は三十三歳、私は三歳でした。祖父母が高齢で母も妊娠中であつたため、田畑の耕作が続行できず、地主に田畑を返し、祖父母は父方の伯父のところへ行き、姉は子守奉公に、母と私は母の実家へ帰ることとなりました。

尋常高等小学校を卒業し、昭和十九年、大東亜戦争も激しくなつた頃、二十歳と十九歳の二組を一緒にやる最初の繰上げ徴兵検査で甲種合格、二十年三月仙台の連隊に入隊しました。

三月末に仙台を出発して、四月五日に北支山西省寧武大隊本部に到着して四日後、さらに、七十km位山奥の中隊に到着、初年兵教育を受けた後、七月中旬に縫工修行兵として大隊本部に出され、基礎教育を受けていた最中の八月十五日、終戦となりました。

二十一年五月十六日、復員の貨物列車で、大原、石家荘、天津、北京を経て、タークの港より佐世保に上陸し、五月二十四日、家に帰りました。

二十二年末まで、母の実家で御礼奉行、二十三年に独立、四月に県内の入植地を四箇所ほど見ましたが、時遅く良いところが無いため、五月に食糧増産緊急開拓で単身渡道、西春別に五戸で入植し、母、姉、妹は第二次の十月、七戸とともに渡道してきました。

四人で荒山を抜根、畑を広げてきましたが、二十五年五月に母が他界、また、その年の秋、姉と妹を嫁がせ、二十六年四月に家内と結婚しました。

当時の生計は、炭焼きと開墾補助金のみで、二十七年から三十三年の間に男子四人を儲けましたが、三度の食事は大麦の庄ペンだけという日が一年以上続きました。

三十一、二年頃に子返し乳牛一頭の貸付を受け、駅前から曳いてくるも、なかなか歩かず、苦勞して家まで曳いて来たものです。その頃は、乳量も輸送缶一本程度で、旧市街まで自転車運んでいましたが、年ごとに頭数・乳量共に増え、馬耕から機械化へと進み、現在の「酪農王国」ともいわれる時代になってきました。

話は変わりますが、平成六年頃、中標津りんどう園に一年半ばかり入院していた家内の母親が亡くなり、その時

に、施設をハーモニカ演奏で慰問しようとして決意し、楽譜のある歌本を手当たり次第買い集めました。

九年から郡部施設四箇所、十二年春からは釧路六箇所、西春別かしわ野月末一週間、十三年からは根室茶内を回るなど、一箇月の半分は施設慰問をしております。

これも、施設で見た男性高齢者の姿に、記憶にない亡き父の面影を誘われたからかもしれません。歩いて、車の運転ができる限り何年でも慰問を続けるつもりです。

この辺で筆を置きます。ありがとうございます。



### 稀有な体験

函館県人会 藁谷 茂

私は昭和三十七年十一月、二十二歳のとき、転勤で北海道にやって来た。赴任地は古平郡古平町沢江村番外地(株鉄興社稲倉石鉱業所(満俺鉱石採取)であった。

六百人が住む部落で、床屋と郵便局だけは公共の施設で、それ以外は小・中学校、診療所なども全て私有(鉱業所)の物であった。

私は鉱業所で使用する資材(坑木、ダイナマイト、油脂類、中古レール、穿岩機、分析機器、社宅の畳、支給の石炭、診療所の薬剤、時には輸血用の血液まで)全てを購買する仕事をする事になった。

その頃の稀有な体験を記してみたい。診療所は山奥深くにあるために、札幌医大のあの有名な和田静男門下生のインターンの医者たちが、一週間から一ヶ月位の期間のサイクルで交代して赴任するというものであった。

私はここで使用する薬剤まで購買する仕事であったから、お医者さん、看護婦さんたちとも顔なじみであった。幸か不幸か、赴任して三年目位に、私は盲腸にかかってしまった。ここの診療所では、この程度の手術はインターンの先生方が執刀することになっていることも知ってはいた。子供の頃一

度盲腸を散らしている経験があるので、その事を告げると、即手術をしなければだめと言われ、翌日には手術台の上にあった。

何せ臆病な私は、初めての手術にびくびくしていたが、顔見知りの看護婦さん達の手前、だらしなない姿は見せられないと覚悟は決めた。盲腸程度だから、下半身麻酔が良いという事で、準備が着々となされていった。

そして、愈々手術開始となった時、執刀の先生が「実は藁谷さんに伝えておく事があります」と神妙に宣った。『今日初めてメスを握るのだ』と、『よろしいでしょうか』と下半身麻酔だけで頭の冴えている私に言うのだ。

私の臆病心はここから急カーブを描いて上昇する。何と言ったら良いのやら、男の子故におどおども出来ず、かといって黙っても居られず、何と言ったか忘れたが、看護婦さんに度胸なしと笑われるやらで、大変な思いをしたが、無事終了し、現在こうして生きている。

後にも先にも手術の経験は、この一回だけだが、皆さんの中には初めて執刀する医師の手術を受けた方、尚且つ医師自ら「今回初めてメスを握ります」と宣言を受けて手術を受けた経験をもちの方はいらっしゃいますか？

## 福島は健在なり

札幌県人会 佐々木 定男

地方の新聞社から依頼された「YOSAKOIソーラン祭り」の取材に出掛ける前に、参加チームのスケジュール表を見てみると、中に「福島県夢乱×2」の名があつたので予定を変更して大通北コースに行った。

駅前通りから一丁離れた待機場所に一台のトラックが目に入った。

トラックの側面に大きく「てんえい夢ソーラン」と書いてあるその下に遠慮がちに「うつくしま未来博」の文字が見えた。

リーダーと話す間もなくチームの踊りが始まった。

およそ四、五十人の若い踊り手たちの衣装は地味に見えた。

前半の振り付けはオーバーアクションが少なく、「よさこい」が始まった頃の踊りを思い出した。

後半からフィニッシュにかかると、若者らしく躍動感溢れる早いリズムにのって乱舞の連続であった。

観衆に一礼すると、棧敷席にいた中年のおじさんから声がとんだ。

「福島、よくやった」と。

おじさんの親は郡山の出身で二代目だとか。福島チームが参加しているとは知らなかったらしい。

「親父に見せてやりたかった」と涙ぐ

んでいた。

親の生まれ故郷には一度も行っていないと言つので、「うつくしま未来博」のことを話しておいた。

福島をPRするために提案がある。毎年、高知県から平均年齢七十八歳のシニアチームが参加している。この

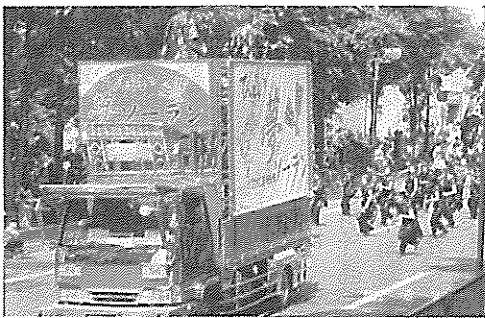
チームの目的は、正調（よさこい節）の民謡と踊りを披露することによって、高知の存在をPRし、道内のシニア団体とも交流していると聞いている。

福島にも「会津磐梯山」「相馬」「遍返し」など、正調の民謡や踊りがある。

福島県内の観光協会や関係団体に、来年の「YOSAKOIソーラン祭り」に参加するよう呼びかけてほしいと思つた。

福島の若者が舞う素直な踊りと礼儀正しい姿を見て私は思った。

「福島は健在なり」と。



天栄村YOSAKOIソーランチームの方々からの特別寄稿

YOSAKOIソーランに参加して

てんえい夢ソーラン実行委員会  
実行委員長 添田 勝幸

「街は舞台だ」で始まった長谷川岳氏の講演から、感動と何かをやらなければという衝動にかられた天栄村商工会青年部の人達を中心に、マンネリ化した地元の祭りやイベントを活性化しよう、地域にもっと関わりを持つと、昨年の二月に組織を作り、YOSAKOI踊りに取り組みました。

当初はなんで商工会青年部がこんな不景気な時に踊りなんだと批判もありましたが、まず自分達で踊ろう、やってみようとして進めていく中で資金的な問題が発生し、これを聞き付けた天栄村長兼子司氏から福島県の地域づくりサポート事業の補助を得ては、と助言がありました。

この補助で音響機材を購入してから、益々熱が入り、本格的に取りかかり、地元や県内各地のイベント、祭りに参加するようになると、地域の方々の反応も良く、YOSAKOI踊りの輪が広がり、徐々に地元マスコミにも取り上げられて知名度も出て、多くの方々に応援を頂けるようになりました。

目標であったYOSAKOIソーラン祭り参加も三年後の計画でありましたが、今の勢いを活かそう、天栄村を、そしてうつくしま未来博を札幌から全国にPRしようと初参加しました。

スケールの大きさに驚き、その中で村の踊り手が生き生きと踊る姿に感動し、各会場でのボランティアスタッフの丁寧な応対や観客の熱い声援、北海道事務所所長さんから激励を頂いて、また感動し、人間のすばらしさを感じてまいりました。

福島県内でもYOSAKOIが広まり、うつくしま未来博の会場でも八月二十六日に、第一回うつくしまYOSAKOIまつりを開催することになりました。このYOSAKOIは踊っても、見ても元気になれます。まず、地域の人達が元気になり、景気回復につながればと思います。

夢乱×夢乱チーム 吉成 美穂  
南半球が「リオのカーニバル」なら、

「YOSAKOIソーラン祭り」は  
北半球の代表

うぶ声を上げて聞かない私たちの「夢乱×夢乱チーム」が、小さな集団ながらも心を一つにし、今や世界的にも絶賛されるほどの「YOSAKOIソーラン祭り」の大舞台で、全国津々浦々から参加されたYOSAKOIソーラン仲間とともに、多くの方々の温

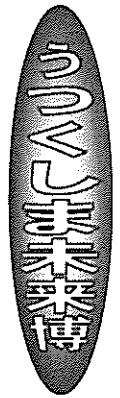
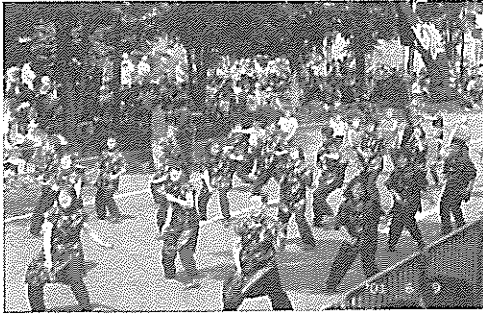
かい声援に支えられ、胸を張って踊れましたことは、この上ない光栄でした。

観客として踊り手、とにかく想像を絶するほど大勢の中で踊る不安と優越感が心の中で葛藤し、新千歳空港が近づくと、大丈夫、毎日練習していたんだから、大丈夫、そんな自信もゼロになり、不安はつるるばかり……。

誰からともなく、「会場の雰囲気は飲み込まれないで、初参加を楽しもう」と、出された言葉で、いつしか緊張していた心も和らぎ、いよいよ札幌大通りでのパレードが開始。

緊張と不安、優越感と思いつきりの笑顔、温かい声援と拍手の渦が、今なお脳裏をよぎり「YOSAKOIソーラン祭り」の興奮から未だ醒めやらずにおります。

正に『やればできる』夢の初舞台で、私たちの目標は成し遂げられました。



### うつくしま未来博開会式に

札幌県人会 菅野 勉吉

六月下旬河野所長さんから電話、実は七月七日から始まる母島のうつくしま未来博の開会式に、知事さんから連合会長上田さんに招待状有るも、上田さんは日程の都合上欠席と、他の関係の方にも依頼したが、夫々所要で欠席との事で私に代理出席出来ないかと。

想うに先の松平知事さん、其の後佐藤知事御夫妻には、恒例の福島県人会北海道連合会総会に万難を排し御出席を戴き、有意義な総会を開催できたこと、之一入に知事さんの御好意、忘却之許すべからずと喜んで出席を受けたのである。

七月五日、千歳空港で所長さんと一緒に。其の折、未来博開会式に北海道知事の代わりに出席する道観光課宮田参事の紹介を受け、又その随行某主査の名刺を受けた。何故、不況の道民の血税、また逼迫の道予算の中、随行の予算の行使とほと、北海道知事の行政の細部不知によるものかと案じたものである。

所長さんの案内で郡山駅前ビューホテルアネックスに宿す。初めての郡山、

明治の頃、沢山の人々が北海道開拓移民として、氣候風土激変の北海道の生活、言語に尽くせぬ其の御苦労を回顧、先人は其の苦も厭わず懸命に働き、何時の日にか錦を飾って故郷に帰ろうと努力したのであるが、哀、其の甲斐なく、この凍る北海道の大地に眠るを偲び、唯々咽ぶものであった。

暇を求め街へ。経済不況の札幌に比するも更に沈滞の風情、東京より大企業が進出あるも、其の現況知る由も無し。往時札幌も、和人の進出増加で札幌を追われ、他土地へのアイヌの人々、又今は札幌在住の人々市外へと、之固定資産税高きが原因である。札幌の中心街之殆ど内地資本下に有る。郡山の方々、札幌と同じ道を歩まねばと酒を酌む。

北大寮歌の「手稲の頂」の文句で無いが其の流れ有る山奥の一廬屋に二三所帯で住む移民三代目。未来博の催しの心、美しき空間、美しき時間には人間が新しい世紀をどのように生きるかという大切なメッセージがこめられている。未来博、共に幸と言う文字が胸に座すのである。

うつくしま未来博の概要、其の名称はジャパンエキスポイン福島二〇〇一うつくしま未来博である。

県民に親しまれている「うつくしま」と言う表現を用いるも、共に二十一世紀への期待感を未来と云う言葉に込

めての名称をうつくしま未来博にしたと。其の概要は、美しい空間、美しい時間、一人ひとりが主体性をもって、それぞれの多様な人生の実現を可能とする生活空間、美しい時間、幅広い出会いや交流を生みだすゆとりある時の流れと地域独自の伝統、歴史、文化を。

開催日程は平成十三年七月七日〜九月三十日迄八十六日間。会場は須賀川市テクノリサーチガーデン用地、面積四十六ヘクタール。

六日朝雨、案ずるも後曇。九時県の水田農業振興課長補佐福地さんの出迎えを受く。話によれば、福地さんの仕事は、水田の減反、米の販売促進、改良とか、農家出身の私には理解の出来ない行政であるような気がしてならない。

ホテルから会場迄車で五十分、受付は十一時、驚いた事は招待者数千有余人、其の席一六一四席、席は正面ステージから縦三列、中央席十三席、一列目国会議員、二列目近隣県知事、三列目は各県人会長席及び日本有数のスポンサー社長等々。県人会長席は、日本列島北からの順、北海道県人会は東京県人会長席のとなりの上席であった。何故か其の席順が開拓移民行政に対しての責か功かは知らないが、斯る席であった。宮様の席からは六米位の近き、午後札幌に戻り、寄り道して北海道神宮境内に祭る開拓神宮に詣で、このこ

とを報告参拝したのである。

午後十一時三十分、秋篠宮(夫妻を

迎え開会、其の次第は

一、オープニングファンファーレ

福島県警音楽隊

二、開会あいさつ

福島県佐藤知事

三、秋篠宮様のお言葉

四、来賓祝辞

福島県議会議長 植田英一

経済産業大臣代理 大村秀章

五、県民参加プログラム紹介

六、開幕宣言

パビリオン紹介

イメージソング披露

岩崎宏美

十二時三十分閉会

述上の如き盛大な開会式であった。唯、先の北海道での食の祭典の如く、報道され、無様な結末にならねば良いがと案じたものである。

閉会から空港発迄一時間余り、所長及び福地さんの案内で、キビタンランド駅からケヤキ駅までゴンドラ。眼下の広大な施設の説明を受け、足早に歩くも見学の余裕無く残念であったが、九月十八日からの母県訪問にと楽しみを残し、帰途についていたのである。

# 新会員紹介

札幌県人会

高橋 智子

橋本 敏夫

帯広県人会

大橋 幹子

岸塚 賢子

高田 勲

高橋 久哉

真鍋 タケ子

函館県人会

恩村 恭子

酒井 好一

佐々木 勝男

竹原 博之

苫小牧県人会

井上 健一

榎 光子

河本 静子

武田 学

向川 則子

渡辺 政四郎

美幌町県人会

阿久津 春比古

鈴木 元春

丹治 敬一

森谷 芳美

いわき市 郡山市

相馬市

岩代町

郡山市

郡山市

二本松市

会津若松市

浪江町

飯館村

いわき市

喜多方市

相馬市

浪江町

棚倉町

福島市

舘岩村

福島市

福島市

福島市

山中 智運 三春町  
横関 秀子 福島市

# OBのお便り

連合会の益々の発展を願って

第八代 所長 佐藤 豁

五十八年四月より八代目の所長として就任し、六十一年三月までの三年間お世話になって以来、はや十五年となりました。退任後も、公私あわせて七回ほど訪れておりますが、民間専用としての千歳空港・小樽の裕次郎記念館・整備の進んだ開拓の村等を見るにつけ、時の流れを感じております。

所長も私以降六人目の十四代目になっており、写真は十年二月に北海道事務所を訪れた際に、梅津前連合会長及び元職員の佐藤・泉谷両氏を囲んでの六人の元所長であります。

私が在任しておりました頃は、公用車が配置されており、南は函館・北は稚内・東は釧路と、泉谷さんと共に総会等に参加させて頂きました。

当時の知事は松平勇雄さんで、連合会の総会を大変楽しみにされておられました。県人会の総会に参加する際は公用車を使用して、私が知事さんの脇に座り、案内役となり会場まで行くの

ですが、知事さんのほうが道内事情に詳しく、試されているような形となり閉口いたしました。遠い道のりでは、早く会場に着かないものかと心に思ったものです。

いずれにしても北海道は広いもので、八三、四五二平方kmというのは、東北六県と新潟県・栃木県それに茨城県の半分の面積を合わせたものに匹敵します。福島県内には、北海道人会連合会の組織がありますが、車で二時間もあれば集まることができません。

それに比べ福島県人会北海道連合会の運営は、なかなか大変なことと思っております。どうか夫々の方部の会長さんにあつては、北海道事務所との連携を一層緊密にされて、連合会組織の益々の発展に御尽力を願うものであります。



# 連合会の活動

## 第一回福島県人会連合会役員会

日 時 平成十三年一月三十日  
場 所 京王プラザ (札幌市)

## 第二回福島県人会連合会役員会

日 時 平成十三年五月二十六日  
場 所 花びしホテル (函館市)

## 第二十九回福島県人会連合会総会

日 時 平成十三年五月  
二十六、二十七日

場 所 花びしホテル (函館市)  
出席者 会員約百四十名

二十一世紀最初の連合会総会が、佐藤知事御夫妻を迎え、花びしホテルを会場に開催され、県人会活動に尽力された方々へ感謝状が贈呈された。

知事表彰を今野豊さん(苫小牧)、連合会長表彰を金子信満さん(函館)他十四名が受賞した。

また、「首都機能移転」について本田首都機能移転対策室長から、「うつくしま未来博」について渡部未来博協会事務局長から説明がなされた。

総会終了後の懇親交流会では、出席者の中で近況などについての話が弾み、最後には知事御夫妻を交えた会員の北海道盆踊りで最高潮に達した。名残置き

ぬ中、来年の帯広市での再会を約し開会した。

なお、時期開催地である帯広県人会新田正雄会長から、歓迎と平成十四年五月十八日(土)を予定している旨のあいさつがあった。



## 第十二回母県訪問旅行

日 時 平成十三年九月  
十八、二十日

見学地 「うつくしま未来博」ほか  
参加者 県人会員五十一名

九月十八日、新千歳空港を出発した母県訪問団は福島空港到着後、バスでうつくしま未来博会場へ。

未来博協会菊地俊彦事務局長の概況説明を受け、当日イベントの関係で来

場されていた菅家一郎会津若松市長からも歓迎のあいさつがあった、会場見学へ出発。

途中、県赤十字大会御出席後、未来博を御視察されていた常陸宮妃殿下華子様お出迎えのときには、知事から「北海道の福島県人会の皆さんです。」と紹介があり、妃殿下から直接お声をかけていただき、中には、汗がどっと噴き出した方もおられたようです。

夜のイベントまで、長時間の見学を終えた後、八時過ぎに石川町母畑温泉の八幡屋まで移動後宿泊、お疲れ様でした。

二日目は、野口英世記念館、天鏡閣、酒造博物館、洪川問屋での昼食、鶴ヶ城、会津武家屋敷など、猪苗代町・会津若松市内を駆け足で見学後、飯坂温泉あづま荘へ、この日も長距離移動お疲れ様でした。

夜はあづま荘で、野地陽一知事公室長、阿久津文作広報広聴課長、北海道事務所OB職員十五名、高橋典彦元所長夫人、末永弘前所長夫人も一緒に懇親会で、旅の疲れを癒すとともに、思い出話に花が咲き、楽しいひとときを過ごしました。

三日目は、まず知事公館で知事表敬訪問。知事から歓迎のあいさつ、上田会長から母県訪問団团长としてのあいさつがあり、歓談の後、知事公館玄関前で記念写真の撮影を行いました。

その後、予定していた梨狩り会場(紺野果樹園)にむかいましたが、生憎の雨模様のため、梨狩りは中止して、試食を楽しみ、お土産の梨を送るなどして、早めに昼食会場へ(岩代屋敷大王)。

昼食後、別海の皆さんはいわき地方へ、親戚や知人の方々を訪ねるため途中下車した参加者以外の方は、郡山駅前解散しました。

皆様、三年ぶりの母県訪問、いかがだったでしょうか。



# 母県動向

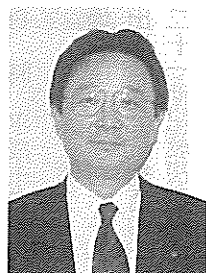
・「つづくしま未来博」

(平成十三年七月七日～九月三十日、

須賀川市)

・第五十七回国民体育大会夏季大会ス  
ケート・アイスホッケー競技会  
(平成十四年一月二十六日、帯広市)

## 新職員自己紹介



さかい えいじ  
酒井 英資

四月一日の定期人事異動で北海道事  
務所にまいりました。

直前の職場は、商工労働部中小企業  
課というところで、中小企業向けの金  
融の仕事をしておりました。

北海道事務所は、採用以来、九つ目  
の職場ということになります。

出身地は福島市ですが、大学五年間  
プラスαを札幌で生活しました。

地下鉄が開通し、冬季オリンピック  
が開催されたのが、一年生のときです。

二十数年ぶりに第二のふるさと、北

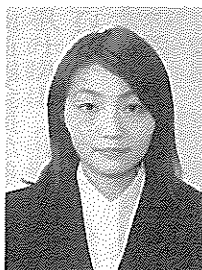
海道・札幌に戻ってきましたが、建物  
など街並みは相当に変わっているよう  
ですが、街の雰囲気には懐かしいもの  
を感じております。

真駒内アイスアリーナの近くにある  
公舎は、建物がやや古い(築二十二年)  
のを気にしなければ、緑に囲まれ、ま  
るで公園の中に住んでいるようです。

四月に赴任以来、各地区の県人会総  
会、函館の連合会総会のほか、いくつ  
かの県人会の行事に出席させていただ  
きました。

それぞれの県人会員の方々は、初  
対面ではありましたが、ルーツを福島  
に持つもの同士の親さのようなものを  
感じました。

当事務所は、県人会員と母県福島県  
とのパイプ役と思っておりますので、  
何時でも(といっても、できれば勤務  
時間中)御活用いただければ幸いです。



たけばやし みき  
竹林 未央

はじめまして。

四月から北海道事務所の臨時職員と  
して採用となりました竹林未央です。

札幌生まれで札幌育ちの私でござい  
ますが、仕事を通して、福島県の良さ  
を北海道の人々に伝えていきたいと思  
っています。

皆さんよろしくお願ひします。

## 編集後記

連合会総会への御出席ありがとうございました。また、函館の皆様お世話になりました。

今年は、とうとう「真夏日」が一日も無い  
寂しい夏となりました。何か忘れ物をしたよ  
うな妙な気持ちです。

九月末で未来博が終わります。母県訪問の  
皆さん、存分に初秋の母県と未来博をお楽し  
みいただけたでしょうか。(所長)

八月発行予定でしたが、作成ソフトが初め  
てのWORDだったため、使い方がわからず、  
右往左往しながらの編集でした。大変遅れて  
しまい、申し訳ありません。次号は一月発行  
予定です。原稿は、十二月十日頃までにお寄  
せくだされば幸いです。(酒井)

古里は、近くに行って想うもの  
→母県訪問旅行に参加して

(大田)

世界を震撼させたテロリズム、  
救いは瓦礫の除去作業等に精を出すボランテ  
ィアの人々。

県人会だよりもこうした「やさしさ」が目  
標です。(高田)

